



FC今治

無人島ゴミ拾いプロジェクト 1/2

JT SDGs貢献プロジェクトの助成を受けて中学生以上を対象に、1泊2日で今治市の無人島・平市島に行きごみを拾い、集めたごみを資源としてコースターやリフトレイに作り変えるというプロジェクトを実施。「ごみ」として捉えると捨てられてしまうものも、「資源」として捉えると、それは新たなモノを作り出す材料となるといった視点を糸口に企画した。ホーム試合会場にて参加者より報告会を行い、試合終了後には共感いただいたサポーターの皆さんと一緒にスタジアム周辺のゴミ拾い活動を実施して海ごみ問題を一緒に考えた。



活動場所

ありがとうサービス、夢スタジアム®、しまなみアースランド、平市島(今治市)



協働者

企業、住民、行政

協働者名

株式会社テクノラボ、日本たばこ産業株式会社、今治市教育委員会、愛媛県教育委員会、愛媛県漁業協同組合桜井支所、今治市桜井財産区



協働者の声

株式会社テクノラボ／林 光邦 氏、小槻 あずさ 氏



海で拾ったごみを、ごみそのものの色や模様を活かした美しいプロダクトに変身させ、ごみ問題を考えるきっかけを作るお手伝いをさせていただきました。夏は暑く冬は寒い地域で日々ごみ問題に取り組む姿勢と、サポーターの方々や地域の皆さまと地域を良くしていこうという熱意に心より尊敬の念を送ります。



活動詳細情報

1

公式note

2

特設note(しまなみ野外学校)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC今治

無人島ゴミ拾いプロジェクト 2/2

Story

想い

世界で年間800万トン以上のプラスチックごみが海に流れ、海洋汚染や生態系に影響を与えています。ビーチクリーンだけではなく、日々取り組んでいかないと、海洋ごみは減りません。しかし、「ごみ」を「資源」として捉えると、それは新たなモノを作り出す材料となります。そんな視点を糸口に、無人島という自然に囲まれた舞台で海洋プラスチックごみ問題を考えるきっかけをつくりたいと企画したものです。



きっかけ

テクノラボさんの海洋プラスチックごみをアップサイクルした工芸品「buøy(ブイ)」との出会いが、きっかけでした。もうひとつのきっかけは、ホーム戦のスタグルです。屋台の食器は、食べてすぐごみになってしまいます。全体を見るとそのごみの量は膨大になります。このふたつがきっかけとなり、「ごみから食器が作れるのでは?」と考えました。ゆくゆくは、里山スタジアムの食器をすべてごみ資源から作りたい。しかもリユース食器として何度も使えるようにしたい、という目標の第一歩としたのが、このプロジェクトでした。

グッズ販売経緯

サポーターさんにも一緒に海ごみ問題を考えるきっかけとして試合終了後にゴミ拾い活動も合わせて実施しました。100人以上のサポーターが集まってくれて、もしかしたら、こちらが思う以上に反響があるのかもしれないと考えました。



「商品売る」というよりも「ストーリーを伝える」という意味で今回のトレイやコースターを販売すれば、想いがもっと伝わるかもしれないと社内で話になり、そこから今回のグッズ販売が実現しました。

展望

参加者自身、グッズを手にとってくれたファンの方々が、なんだか楽しいな、ステキだなと感じてもらおうこと。そして、興味をもってもらうこと。それが、海ごみの問題、環境問題への取り組みを広げていく第一歩だと感じています。今後もたくさんの人と、心で繋がっていきたくらいです。